

独立行政法人福祉医療機構

LIFE（科学的介護情報システム） 対応セミナー

～ケアの質・経営の質を高めるLIFEの上手な使い方～

私たちは、地域に信頼されるべき
存在であり続けます



社会福祉法人鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム
常務理事・施設長 服部 昭博

自己紹介



社会福祉法人 鈴鹿福祉会 常務理事

特別養護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム 施設長

服部 昭博

出身地 京都市

キャリア

大学(文学部 上代文学専攻)卒業後、1997年 栄養士専門学校卒業、病院勤務
1999年 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホームに入職(管理栄養士)
2011年 施設長に就任(2021年～ 居宅介護支援事業所管理者 兼務)

主な資格

管理栄養士、介護支援専門員、ユニットケア施設管理者研修修了、第一種衛生管理者、デジタル中核人材養成研修修了、介護事業所雇用管理責任者講習修了、危険物取扱者(乙種第4類)、大型自動車運転免許、調理師など

自治体・関係団体の役職歴

三重県 介護現場革新会議 副委員長／介護人材確保対策連携推進協議会 委員／看護職員確保対策検討会 委員／感染対策支援ネットワーク運営会議 委員／福祉人材センター運営委員会 委員長／福祉サービス運営適正化委員会 委員

三重労働局 福祉人材確保推進協議会 委員

鈴鹿市 地域包括在宅医療ケアシステム運営委員会 構成員

三重県老人福祉施設協会 会長 / 公益社団法人全国老人福祉施設協議会 災害対策委員会 副委員長

R6 厚生労働省委託事業 介護現場の生産性向上に関する普及加速化事業検討委員会 委員／介護現場における身寄りのない高齢者等に対するサービス提供の実態にかかる調査研究事業委員会 委員／厚生労働省老人保健健康増進事業 ケアプランデータ連携の更なる活用に向けた調査研究検討委員会 委員 など

R7 厚生労働省 LIFE情報をアセスメント及びケアプラン作成に活用する方法に関する調査研究事業委員 など



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

沿革 および取組経過

介護職員の働きやすい職場環境づくり 厚生労働大臣表彰 奨励賞 受賞(特養)
三重県介護現場業務改善モデル事業所 選定(ショートステイ翠風)
厚生労働省「介護現場における生産性向上の取組に関する実証」参画(ショートステイ翠風)
生産性向上推進体制加算算定開始(特養・ショートステイ・ショートステイ翠風)
LIFE関連加算全種類算定(特養)

介護職員の働きやすい職場環境づくり 厚生労働大臣表彰奨励賞受賞(ショートステイ翠風)
生産性向上推進体制加算算定開始(認知症グループホーム)
みえの働き方改革推進企業★★★★認定
ケアプランデータ連携システム試用開始(全居宅サービス)

コロナ禍(2020.1-2023.5)

在宅ワーク開始 (居宅介護支援)
みえDX推進ラボ登録

厚生労働省「介護現場における生産性向上の取組に関する実証」参画 (特養)

グローバル介護人材初採用 (特定技能・特養) 三重労働局 安全衛生努力賞 受賞 (特養)

科学的介護情報システム (LIFE) に取り組む (特養・デイ)

CHASE(科学的介護情報システム (LIFE) の前身)に取り組む (特養)

5月 開始→8月データ提出→10月フィードバック

データのフィードバックを受けた特養は、約8,300施設中66施設(0.8%)

オンライン会議・研修開始【全施設・事業所】 2020

インカム導入開始 (特養・デイ) 介護ソフト変更【全施設・事業所】 2019

ICTを活用した機能訓練開始 (デイ) 2018

介護ロボット導入開始 (特養) 2017

タブレットでの介護・看護記録開始 (特養) 2016

みえ働きやすい介護職場取組宣言事業所(宣言番号I)

デジタルトランスフォーメーション (DX) 開始

これまでの経験を新規事業・各事業運営に反映

2014 特別養護老人ホームリニューアル(ユニット型特養50床・ユニット型ショートステイ30床)

1999 居宅介護支援事業所指定

重要なのは
Dより「X」

1996 地域の高齢者への介護予防事業を開始

1993 特別養護老人ホーム (多床室)・ショートステイ (多床室)・デイサービスセンター開設



自施設・自事業所では
この10年で取組が加速化！



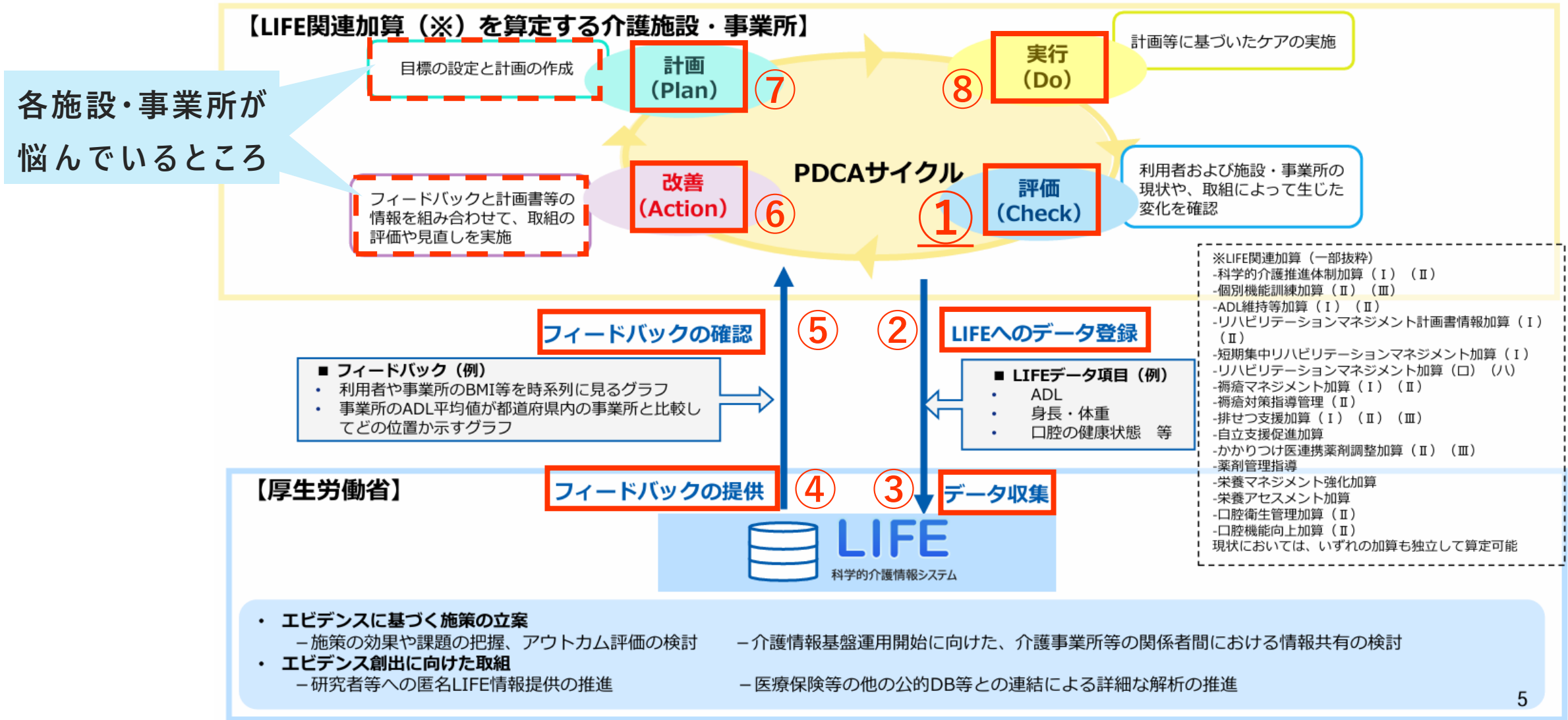
社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

LIFE（科学的介護情報システム）について



LIFEシステムの全体像



LIFEの活用等が要件に含まれている加算(LIFE関連加算)

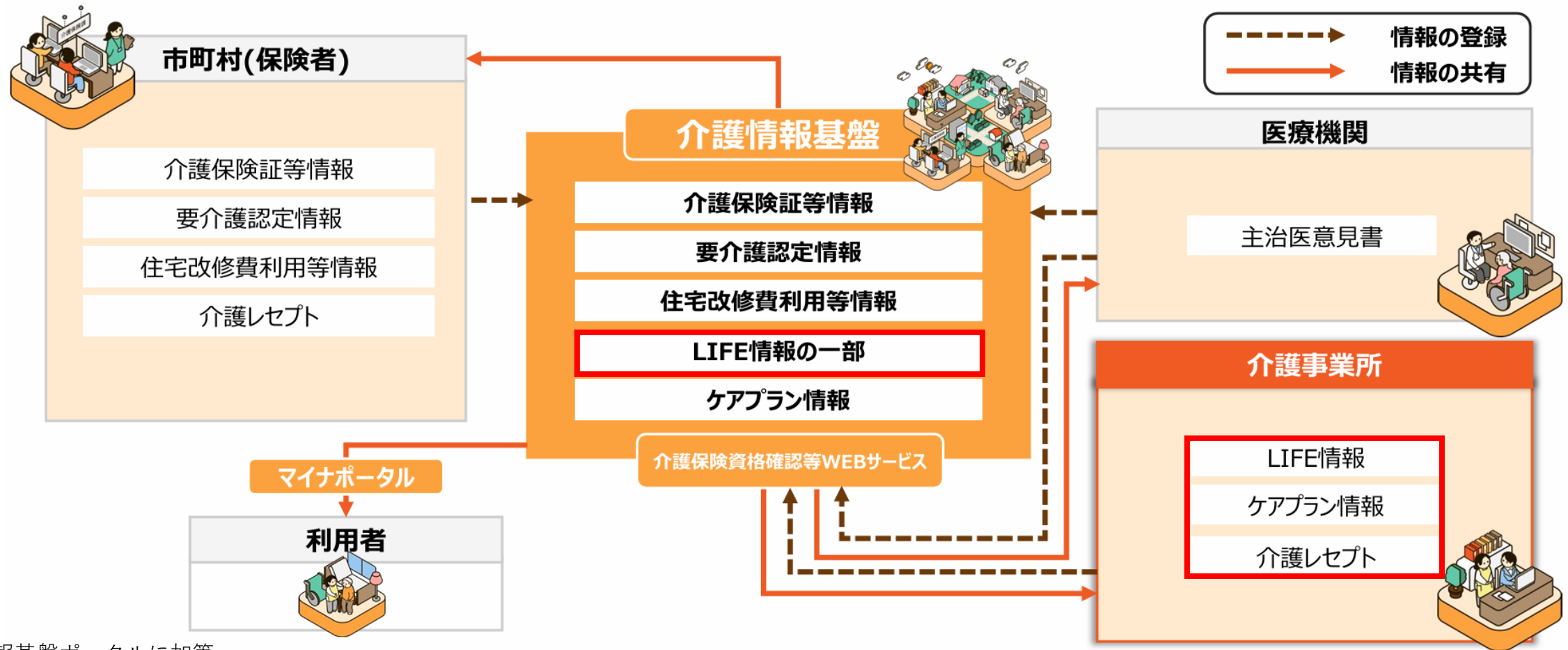
	科学的介護推進加算(Ⅰ) 科学的介護推進加算(Ⅱ)	個別機能訓練加算(Ⅱ)	ADL維持等加算(Ⅰ) ADL維持等加算(Ⅱ)	リハビリテーションマネジメント計画書情報加算	理学療法、作業療法及び言語聴覚療法に係る加算	褥瘡マネジメント加算(Ⅰ) 褥瘡マネジメント加算(Ⅱ)	褥瘡対策指導管理(Ⅱ)	排せつ支援加算(Ⅰ) 排せつ支援加算(Ⅱ) 排せつ支援加算(Ⅲ)	自立支援促進加算	かかりつけ医連携薬剤調整加算	薬剤管理指導	栄養マネジメント強化加算	口腔衛生管理加算(Ⅱ)
介護老人福祉施設	○	○	○			○		○	○			○	○
地域密着型介護老人福祉施設	○	○	○			○		○	○			○	○
介護老人保健施設	○			○		○		○	○	○		○	○
介護医療院	○				○		○	○	○		○	○	○

	科学的介護推進加算	個別機能訓練加算(Ⅱ)	ADL維持等加算(Ⅰ) ADL維持等加算(Ⅱ)	リハビリテーションマネジメント加算(A)ロ リハビリテーションマネジメント加算(B)ロ	褥瘡マネジメント加算(Ⅰ) 褥瘡マネジメント加算(Ⅱ)	排せつ支援加算(Ⅰ) 排せつ支援加算(Ⅱ) 排せつ支援加算(Ⅲ)	栄養アセスメント加算	口腔機能向上加算(Ⅱ)
通所介護	○	○	○				○	○
地域密着型通所介護	○	○	○				○	○
認知症対応型通所介護(予防含む)	○	○	○ (予防を除く)				○	○
特定施設入居者生活介護(予防含む)	○	○	○ (予防を除く)					
地域密着型特定施設入居者生活介護	○	○	○					
認知症対応型共同生活介護(予防を含む)	○							
小規模多機能型居宅介護(予防含む)	○							
看護小規模多機能型居宅介護	○				○	○	○	○
通所リハビリテーション(予防含む)	○			○ (予防を除く)			○	○
訪問リハビリテーション				○ (予防を除く)				

介護情報基盤(介護基盤情報システム)との関係

全体の概念図

介護に関わる各システムの情報が、介護情報基盤に集まり、共有・登録・管理できるようになります。



LIFEへの取組に対する自施設の考え方



LIFEに取り組まなければならない



LIFE関連加算を取得しなければならない



LIFEフィードバックを活用しなければならない



LIFEを「攻略」しよう！（スポーツのような感覚）



課題だけでなく、「よいところ」もどんどん見つけよう！



LIFE導入の経緯・プロセス



2010年頃の自施設・事業所の介護現場・・・すべて人手に頼らざるを得なかった

夜勤時のコール対応

また、コールが！
転倒などされてないかな！

センサーコールマットが
鳴るたびに、走って
駆けつける。。

再発防止策は
結局、一様に
「見守りの強
化」。。



フロアと居室の往復

再発防止の検討に時間をかけたにもかかわらず、往々にして再発

移乗介助・入浴介助・排泄介助の身体的負担

連続の介助は、
体力的にきつい。。

中腰姿勢が続くので、
腰に負担が。。



治療に1か月
職員に痛い思いを
させてしまった・・・



情報が伝わらない



内線電話
での伝達

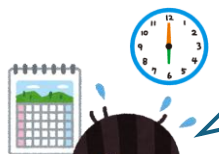


時間がかかる
タイムラグが
生じる。。



記録業務の煩雑さ

ケアワーカー室



ケア記録を書いたり、
転記したり、紙の
記録をファイリング
するために残業。。

文章が上手く書けな
い、うーん・・・

文章作成の得手、不得手によって、
投入時間・質にバラツキ
定期的に紙の記録を個人記録に転記、
ファイリング（2度手間、3度手間）

フロア環境の悪化

〇〇さんのトイレ誘導
をお願いします！

は、はい・・・



ヒト探し・モノ探し

看護職員さん
はいませんか？

車いすは
余ってません
か？

いいえ、ここには
いません。。

このフロアには
ありません。。

内線電話でのやりとりにより、業務の手が止まる

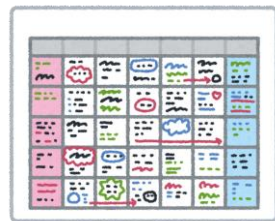
この状況、
何とかならない
のかな？
（とても嫌だった）



2010年頃の自施設・事業所の介護現場・・・すべて人手に頼らざるを得なかった

会議（集合開催）のスケジュール調整

みんなの都合が全然
合わないわね・・・



夜勤職員や休みの
職員にはそれぞれ
別日で会議内容を
伝えるしかないな。。



朝・夕の申し送りも時間どおりに始められない・・・

勤務変更・時間外労働申請の事務手続き



手書きの勤務変
更・時間外労働
の申請・年次有
給休暇の取得
申請書類／
タイムカード打刻
...



管理職・事務員



確認・承認の
手続と計算に
時間がかか
る。。

研修受講の機会

必要な研修を受けたり、資格を取りに行ってもらいたいけど、そうするとうまく勤務が組めないわ。。

研修を受講させたい職員



私が代わりに出勤する
しかないわね。。



介護保険関係帳票の作成時間

〇〇の帳票はできたけど
あと8様式 × 利用者分もある。。



今月中に急いで
作成しなければ！



来月の利用
予定分のFAX
が届きましたー

この解釈で
よかったんだっ
け？



この状況、
何とかならない
のかな？
(とても嫌だった)



その他：シフト表作成、送迎表作成、居室
以外の場所の見守りなど

各介護現場の「真」の課題に刺さるテクノロジーが求められる！



社会福祉法人 鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム

LIFE導入の経緯・プロセス



もともと、介護現場の ケアの質を世間に対して伝えたい という思いがあった（知ってほしかった）



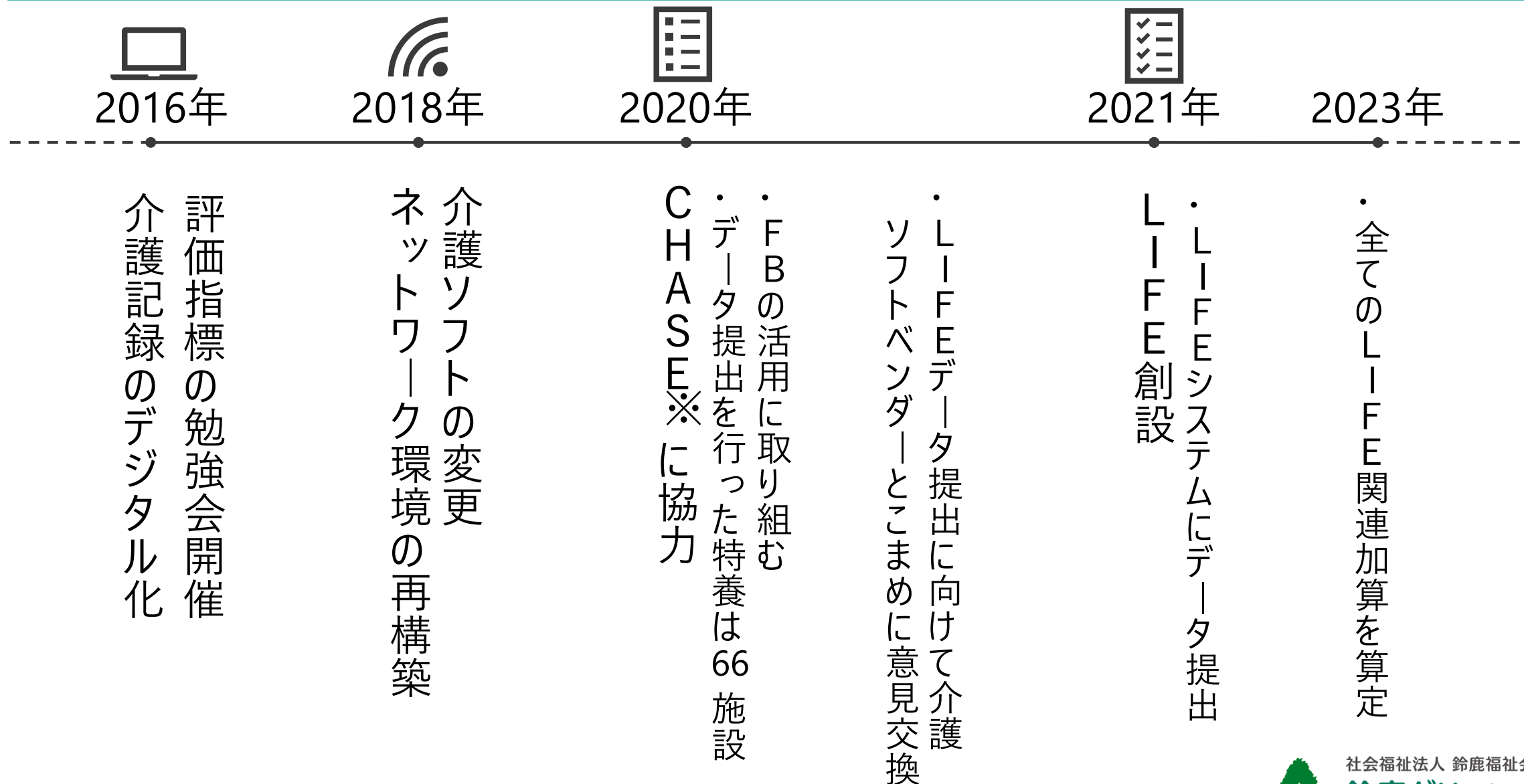
日常の 業務がどうにかならないか と思うところがあった（テクノロジーに活路が見いだせないか少し考えていた）



客観的で、かつエビデンスのある 評価指標 がないかな？（評価指標の勉強会を実施）



LIFE導入の経緯・プロセス



※CHASE：LIFEの前身。CHASEとVISITが統合され、LIFEが創設された。

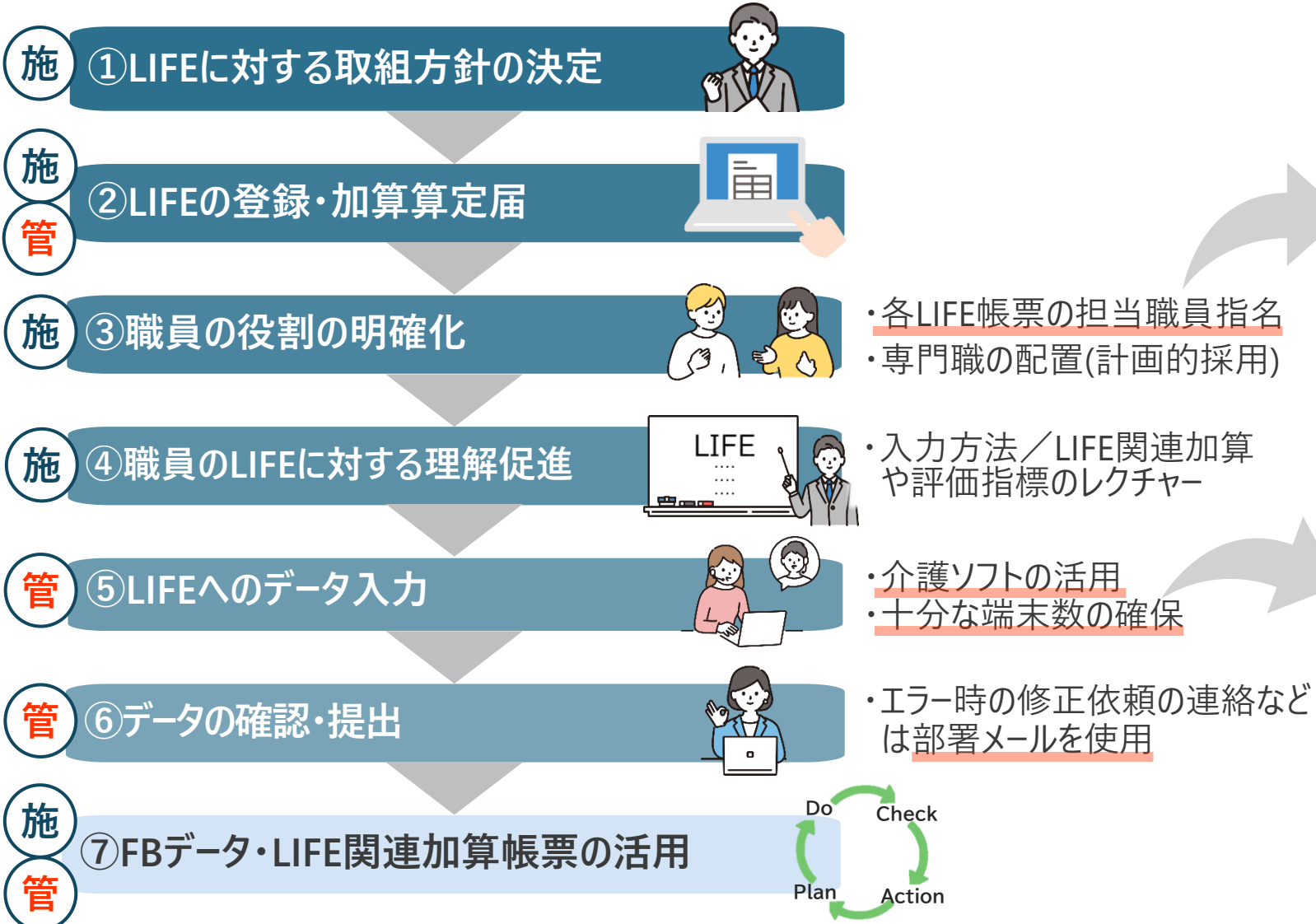


社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

自施設のLIFE取組プロセス

所属法人 介護老人福祉施設の事例



様式の構成別 主担当者

【科学的介護推進体制加算の場合】

・利用者情報	介護保険請求担当事務員
・基本情報	介護支援専門員（管理ユーザ）
・総論	看護職員、ユニットリーダー
・口腔	介護支援専門員（管理ユーザ）
・栄養	管理栄養士
・認知症	看護職員
・生活・認知機能尺度	ユニットリーダー
・VitalityIndex	ユニットリーダー
・FB 評価	施設長、管理ユーザ

ネットワーク環境をフル活用！

- ✓ Wi-Fiネットワーク環境をフル活用して、職員の負担軽減と生産性向上を同時に進める！
- ✓ 見守り支援機器の利活用（通知を受ける端末：スマホ！）
- ✓ 会議はオンラインで開催
- ✓ 申し送りは介護ソフトの機能を活用
- ✓ 介護ソフト等ICTの使用でグローバル介護人材のポテンシャルを最大限に引き出す
- ✓ 日々の情報連携はインカム、介護ソフト、部署メールやチャット等、内容や状況に応じたツールの選択 など

**介護テクノロジー
導入支援補助金を
活用！**

※施：施設長／管：LIFE管理ユーザ

LIFEフィードバックデータの活用事例とその効果



～私（施設長）のスタンス～

- ✓ 介護現場、LIFEへの取組の応援団長であり、厳しめのファン（プロ野球ファンのような。。。）
- ✓ LIFEデータから現場のケアの正当性（チームの良さ）を誰よりも早く見つけて、外部に発信したい（ファン心理）



フィードバックについて

LIFEで求められているデータ活用について

「指定居宅サービスに要する費用の額の算定に関する基準」（平成12年 3 月 8 日老企第40号） 第2の5 （44）

科学的介護推進体制加算について

- ③ 施設は、入所者に提供する施設サービスの質を常に向上させていくため、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）のサイクル（PDCAサイクル）により、質の高いサービスを実施する体制を整備するとともに、その更なる向上に努めることが重要であり、具体的には、次のような一連の取組が求められる。したがって、**情報を厚生労働省に提出するだけでは、本加算（＝科学的介護推進体制加算）の対象にならない。**
- イ 入所者の心身の状況等に係る基本的な情報に基づき、適切なサービスを提供するための施設サービス計画を作成する。（Plan）
 - ロ サービスの提供に当たっては、施設サービス計画に基づいて、入所者の自立支援や重度化防止に資する介護を実施する。（Do）
 - ハ **LIFEへの提出情報及びフィードバック等も活用**し、多職種が共同して、**施設の特性やサービスの在り方について検証**を行う。（Check）
 - ニ 検証結果に基づき、入所者の施設サービス計画を適切に見直し、施設全体として、サービスの質の更なる向上に努める。（Action）

フィードバックについて

事業所FBと利用者FBの基本的な見方について

●事業所フィードバック

- ・全国、自県と自施設（自事業所）を見比べる

●利用者フィードバック

- ① 同じ利用者について、3月毎の経過・変化を見比べる
- ② ①と全国（自県）の同じような利用者と見比べる
- ③ ①のLIFEデータの時系列変化と、その間に自施設・自事業所において
実施（変更）したケアの内容を組み合わせで検討してみる

←まずは①を、
1ケースやってみる！

LIFEデータを見る姿勢 = 気楽に、肩の力を抜いて！

フィードバックについて

所属法人 介護老人福祉施設の事例

過去の自施設の傾向

- 要介護度
- 年齢
- 日常生活自立度（障がい高齢者）
- ADL（日常生活動作）
- 日常生活自立度（認知症高齢者）
- 栄養状態（BMI）
- 【過去】口腔（歯の汚れ）
- 【過去】口腔（歯肉の腫れ・出血）

介4・5の割合が高め ←

85歳以上の方が多い ←

寝たきりの方（C1・C2）は少ない ←

合計点数が高い ←

重度の方（IV・M）が多い ←

18.5未満の方（低栄養）が少ない ←

全国よりもわずかに汚れている方の割合が高い ←

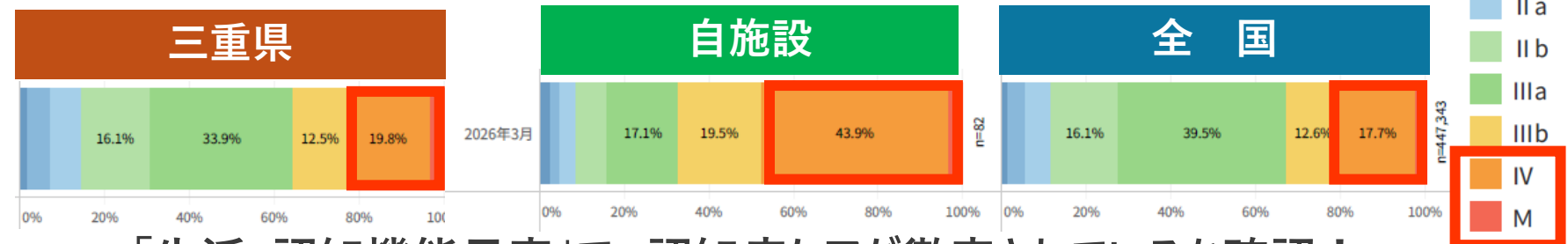
全国よりもわずかにありの方の割合が高い ←

矛盾



優先すべきケアは、「認知症」！
・基本的な認知症ケアの徹底
・口腔ケア
（＋看取りケア）

認知症高齢者の日常生活自立度（直近の状況）



→「生活・認知機能尺度」で、認知症ケアが徹底されているか確認！

～最優先すべきケアは何？～ 加算＝「質」と考える

所属法人 介護老人福祉施設の事例

～2020.10 ユニットリーダー会議～
(施設長) 口腔ケアに力を入れてほしい！

2020年8月サービス提供分 CHASEフィードバック



自施設の他職種連携例



経過をFBで観察

2021年4月サービス提供分 LIFEフィードバック

		全国	当ホーム
歯・入れ歯が汚れている	該当無し	72%	83%
	該当有り	28%	17%
	計(合計)	100%	100%

歯がきれいになった！

歯の汚れあり：17%

口腔衛生管理加算
算定の効果

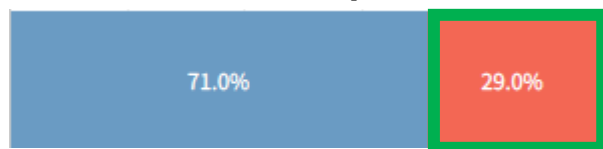


経過をFBで観察

2026年1月サービス提供分 LIFEフィードバック

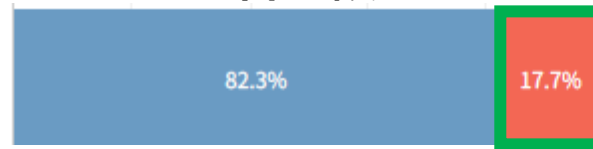
高い水準を維持できているね！

三重県

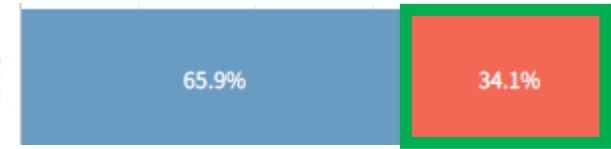


歯の汚れ

自施設



全国



～その他のフィードバック活用事例

所属法人 認知症対応型共同生活介護の事例

- ・ウィークポイントを優先して質を高める（＝加算取得につなげる）

所属法人 地域密着型通所介護の事例

- ・要介護3以上割合＝送迎業務とリンクしていることを発見（事業所FB）

所属法人 介護老人福祉施設の事例

- ・多職種介入の状況が見える化→ケアの質の確認と計画の見直しに活用（関連様式の活用）

所属法人 介護老人福祉施設の事例

- ・「科学的介護推進体制に関する評価」データ＋「興味・関心チェックシート」×生成AI＝ケアプラン原案の基案のアイデア出し

所属法人 各施設・事業所の事例

- ・運営推進会議での報告（事業所FB）
- ・事業報告書等への掲載（事業所FB）
- ・HPや広報誌への掲載（事業所FB）

その他、部署会議での報告（事業所FB・利用者FB）利用者・家族・ケアマネジャーへの情報提供（事業所FB・利用者FB）、家族懇談会などでの報告（事業所FB）などにも活用可能



LIFE関連加算様式の内容について（介護老人福祉施設）

加算名称	対応する様式	計画書	評価	アセスメント	モニタリング	スクリーニング
科学的介護推進体制加算 (Ⅰ)(Ⅱ)	科学的介護推進に関する評価(施設) 生活・認知機能尺度 DBD13 ICFステージング		● ● ● ●			
口腔衛生管理加算(Ⅱ)	口腔衛生管理加算 様式(実施計画)	●	●			
栄養マネジメント強化加算	栄養・摂食嚥下スクリーニング・アセスメント・モニタリング 栄養ケア・経口移行・経口維持計画書(施設)	●	●	●	●	●
個別機能訓練加算 (Ⅱ)(Ⅲ)	別紙様式1:興味・関心チェックシート 別紙様式2:生活機能チェックシート 別紙様式3:個別機能訓練計画書	●	● ●			
ADL維持等加算 (Ⅰ)(Ⅱ)	特定の様式はなし ※施設・事業所は、利用者のADLデータをLIFEへ提出。提出されたデータをもとにADL利得を算出する機能を使用できます。		●			
褥瘡マネジメント加算 (Ⅰ)(Ⅱ)	褥瘡対策に関するスクリーニング・ケア計画書	●	●			●
排せつ支援加算 (Ⅰ)(Ⅱ)(Ⅲ)	排せつの状態に関するスクリーニング・支援計画書	●	●			●
自立支援促進加算	自立支援促進に関する評価・支援計画書	●	●			

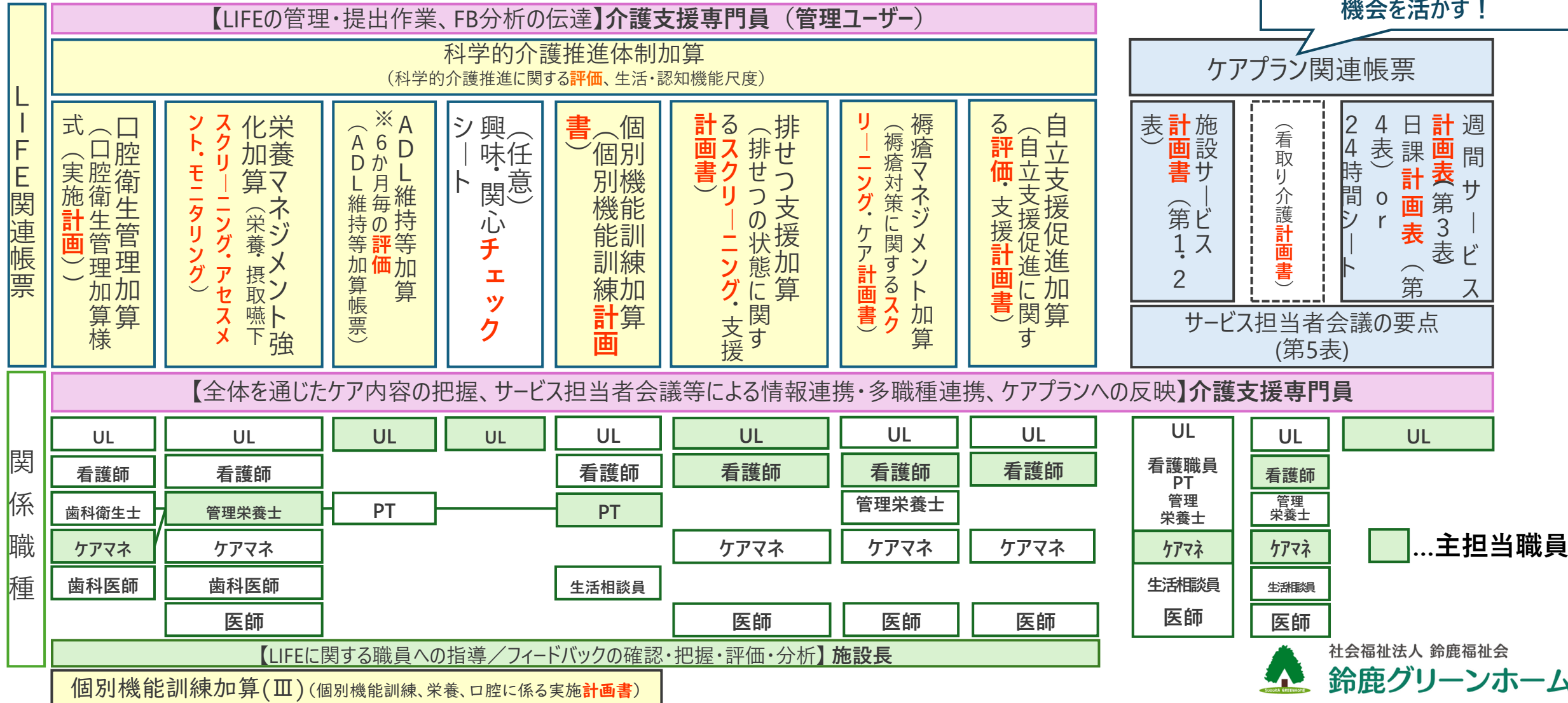


システマチックに取り組む～3か月毎に帳票を作成・提出しうる体制づくり～

所属法人 **介護老人福祉施設**の事例

サービス担当者会議は**オンライン開催(3か月毎)**／ケアカンファレンスはユニット会議内で開催(毎月・**ハイブリッド**)
 日常業務の情報連携（伝達・共有、依頼、申し送り、朝・夕礼など）は**インカム・介護ソフト内連携・部署メール**で対応

多職種連携は、全職種が
関わる**サービス担当者会議**の
機会を活かす！



LIFE関連加算 全取得による収益シミュレーション（介護老人福祉施設 80床）

★地域区分 6級地（10.27円）を含む。

加算名称	介護報酬	年額
科学的介護推進体制加算(Ⅱ)	50単位／月	492,960円
口腔衛生管理加算(Ⅱ)	110単位／月	1,084,512円
栄養マネジメント強化加算	11単位／日	3,298,724円
個別機能訓練加算(Ⅱ)(Ⅲ)	20・20単位／月	394,368円
ADL維持等加算(Ⅱ)	60単位／月	591,552円
褥瘡マネジメント加算(Ⅰ)	3単位／月	29,578円
排せつ支援加算(Ⅰ)	10単位／月	98,592円
自立支援促進加算	280単位／月	2,760,576円
介護職員等処遇改善加算（Ⅰ・Ⅱ）	17.6%	149,966円
計		8,900,828円



生産性向上とLIFE活用～各施設でLIFEを定着させるための 実践プロセス

～LIFE is very strange.～



LIFE攻略に向けた課題

「LIFEに取り組まなければならない・・・」

「フィードバックを活用しなければならない・・・」

「LIFE関連加算を取得しなければならない・・・」

LIFEは、このように考えれば、考えるほど、
なぜか、ますます取り組めなくなる 不思議なもの・・・



LIFE関連加算の算定割合（R7.4（介護老人福祉施設））

加算名称		R7.4調査 (n=1,780)	R6.7調査 (n=1,817)	R5.4調査 (n=1,802)	R4.4調査 (n=1,806)	R3.7調査 (n=2,252)
科学的介護推進体制加算						
（Ⅰ）		78.7%	74.6%	67.5%	62.0%	49.5%
（Ⅱ）		31.0%	31.2%	26.0%	23.7%	—
		47.7%	43.4%	41.5%	38.3%	—
口腔衛生管理加算						
（Ⅰ）		31.7%	31.7%	30.7%	30.3%	—
		7.8%	10.3%	13.9%	13.7%	—
（Ⅱ）		23.9%	21.4%	16.8%	16.6%	—
栄養マネジメント強化加算						
		46.9%	44.2%	38.5%	37.0%	29.6%
ADL維持等加算						
（Ⅰ）		15.9%	13.4%	11.9%	8.9%	19.1%
（Ⅱ）		10.1%	8.6%	4.8%	3.3%	—
		5.8%	4.8%	7.1%	5.6%	—
個別機能訓練加算						
（Ⅰ）		88.8%	86.9%	81.5%	82.2%	55.5%
		53.0%	53.5%	52.8%	53.7%	—
（Ⅱ）		35.8%	33.4%	28.7%	28.5%	—
（Ⅲ）		6.5%	5.7%	R6新設	R6新設	—
排せつ支援加算(Ⅰ)(Ⅱ)(Ⅲ)						
		24.0%	22.0%	20.3%	20.2%	21.5%
褥瘡マネジメント加算(Ⅰ)(Ⅱ)						
		37.9%	35.6%	32.5%	33.0%	35.4%
自立支援促進加算						
		10.4%	10.4%	9.4%	10.6%	12.3%

LIFE攻略に向けた最大の課題

			年間 帳票作成数(80床)
施設サービス計画書 第1表 施設サービス計画書(1) 第2表 施設サービス計画書(2) 第3表 週間サービス計画書 第4表 日課計画表(24時間シート) 第5表 サービス担当者会議の要点	+科学的介護推進体制加算 ・科学的介護推進に関する評価 ・生活・認知機能尺度	+LIFE関連加算 なし	2,240
		+LIFE関連加算 1 種類	2,560
		+ // 2 種類	2,880
		+ // 3 種類	3,200
		+ // 4 種類	3,520
		+ // 5 種類	3,840
		+ // 6 種類	4,160
		+ // 7 種類	4,480



LIFE攻略に向けた課題

80床、勤務時間 2,000時間／年の場合

ケアプラン関連帳票のみ



年間 帳票作成数 800

※約150分に1帳票作成ペース

LIFEに取り組めば取り組むだけ、作成する帳票数が跳ね上がる！

+LIFE関連加算 8種類



年間 帳票作成数 4,480

※約 30分に1帳票作成ペース



LIFEの攻略 = 生産性向上・ICT機器のフル活用が必須！



最初にすべきこと

- ・職員との課題共有

2020年→2040年

75歳以上人口	→	32%増
生産年齢人口	→	21%減
年少人口	→	36%減

業務改善の
レベルでは
対応できない

- ・デジタルネットワーク環境の整備

- ・自施設・事業所の介護現場のニーズの深掘り

- ・中期的な（10年くらい）人材確保見通し



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム



介護サービスの質の向上 **“と同時に”** 負担軽減を図る

※2018(平成30)年頃に、このような考え方が固まった

方策を3つに絞った！

2040年から逆算
して各取組を開始

① **介護テクノロジー**（ICT機器・介護ロボット）の利活用

2016（平成28）年度～

※人がわざわざしなくてもよい業務をアシスト

② **グローバル介護人材**の能力開発

2021（令和3）年度～

※20～30歳代の介護職員を少なくとも10年、一定数確保することができる

③ **介護助手**の雇用

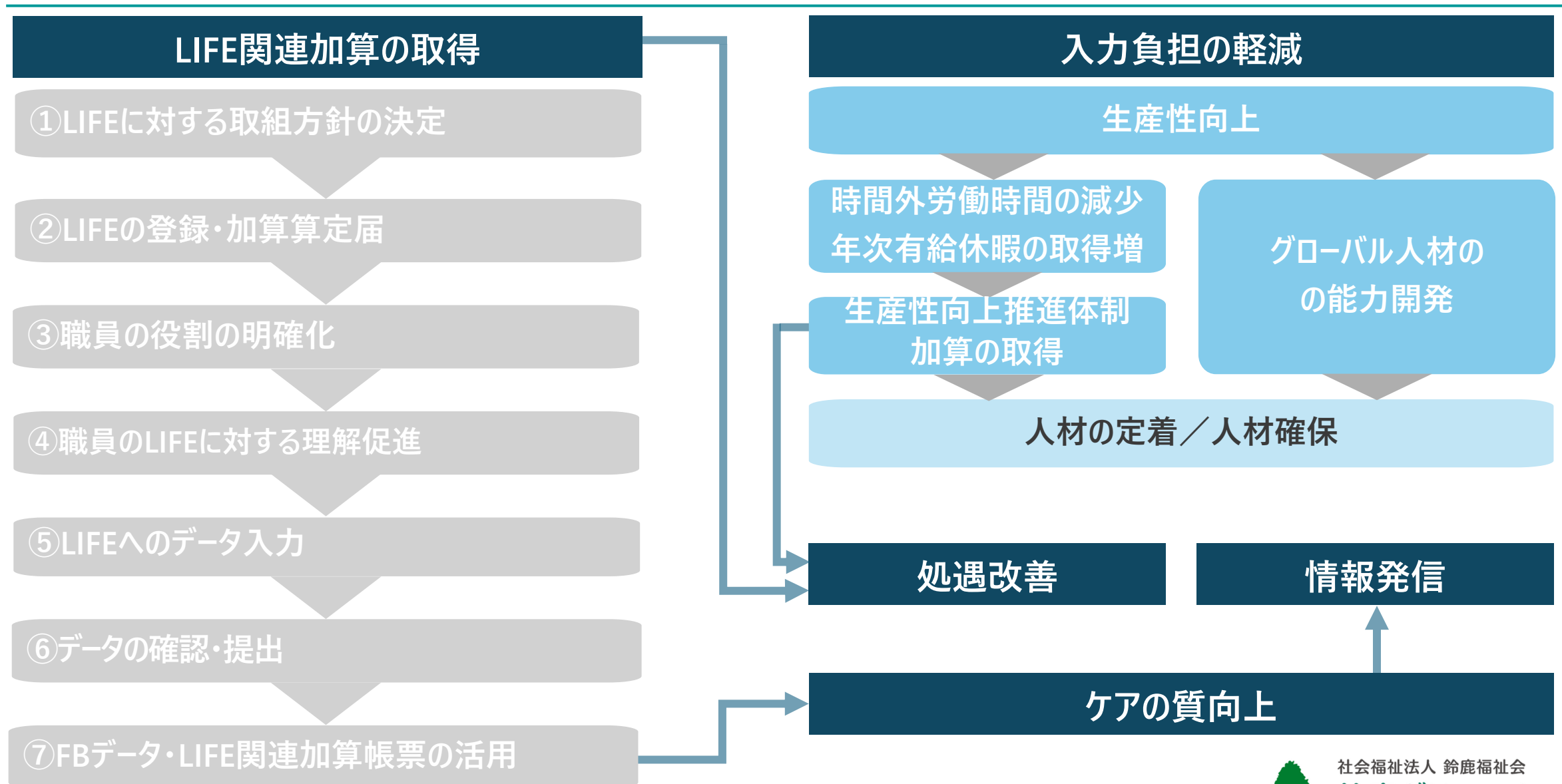
過去より雇用

※専門職が果たすべき仕事に集中できる環境の整備

（75歳以上増対策：ICTをフル活用したフレイル予防（介護予防・健康寿命延伸））



LIFE取り組みの流れ

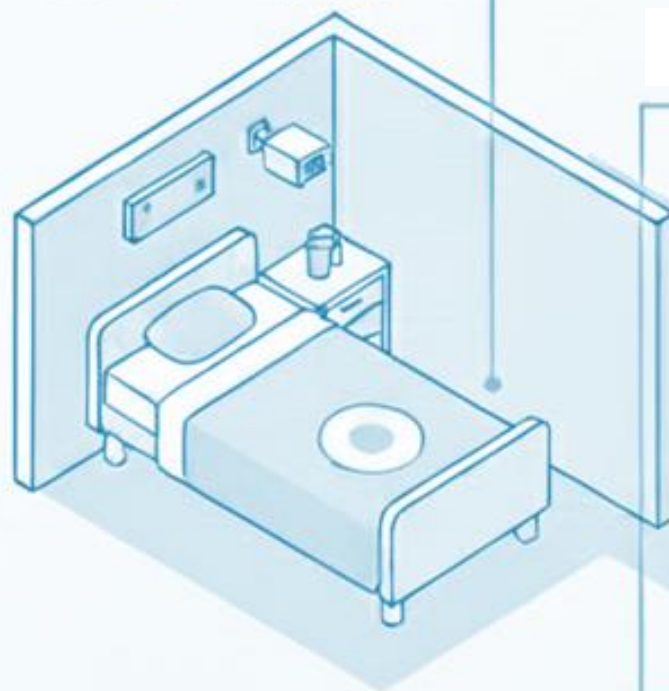


所属法人 介護老人福祉施設の事例

特別養護老人ホームC棟の状況 R4に厚生労働省の「夜間見守り」 実証に参画

①カメラ系離床センサー

補機：マット系バイタル・睡眠センサー



AP



夜間看護オンコール委託

③自動記録 録画データ自動保存

各種アプリや
機器活用・連携

①共用部の 見守り

※ライブ対応

②訪室・見守り の判断



事務作業
ヘルプ対応・情報共有

「真」の課題に刺さるものであれば、
職員は自ら使い始める

特別養護老人ホームC棟の状況

所属法人 介護老人福祉施設の事例

①主担当の業務時間	600分
②通常の担当利用者	15人
③実証時の担当利用者数	30人
④サポーターによる「直接介護＋巡回・移動＋見守り機器の使用・確認」のサポート時間 (1日平均)	14.2分
⑤通常の利用者1人あたりの担当時間（想定）	40.0分/人
⑥実証時の利用者1人あたり担当時間	20.5分/人
⑦実証時の職員1人あたり担当可能人数	29.3人
⑧職員1人あたりの対応可能な利用者数の増加割合	195.4%
⑨担当可能利用者数	29.3人
⑩実証時の担当利用者の想定人数への達成率	97.7%

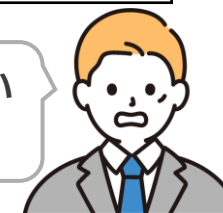
1名の夜勤者で29.3人まで
対応可能
＝夜勤の業務負担が約半分に！

厚生労働省「介護ロボット等による生産性向上の取組に関する報告書」（令和5年3月）



3つのユニットの造りが、
もっとよかったら、1人で40人
まで対応できたかもしれません

それ言っちゃい
ますか！



得られた時間を夜勤帯
(日中や時間外に行っていた事務作業) に



おすすめの攻略法(LIFEに取り組むために効率化を図る)

所属法人 **介護老人福祉施設**の事例

～会議は、すべてオンライン（ハイブリッド）に！／情報連携は効率的なデジタルツールで！～

（１）サービス担当者会議（１件あたり５分・・・段取り／効率的な運営を！）

- ①タイムスケジュールは事前にメールで調整
- ②ケアプラン原案等は出席者が事前に介護ソフト内を確認
- ③専門職は自身の端末から出席（各専門職にラップトップPCを用意）
- ④介護ソフトを画面共有
- ⑤ケアマネからCP原案の説明と、各専門職より担当するLIFE関連加算について意見を述べる
- ⑥書記役及び各専門職がサービス担当者会議の要点を入力
（**会議と同時進行、会議終了時にはほぼ要点の入力が終わっている状態を最良**としている）

※多職種連携の記録としても活用

（３）情報連携ツールの最適化（職員の負担を軽く！）

- ①日常の業務連絡・情報共有・・・インカム
- ②相手が不在の場合や、文字やデータで伝える必要がある場合・・・eメール
- ③大容量のデータ、保存が必要なデータ・・・NAS、共有フォルダ
- ④介護・看護記録、申し送り・・・介護ソフト
- ⑤全職員への一斉連絡・・・チャットツール
- ⑥スケジュール・・・カレンダーアプリ
- ⑦勤怠管理・・・ICカード・アプリ
- ⑧既存帳票の活用・・・食事箋は日々使用する多職種連携の記録

（２）ユニット会議（約90分）・・・法定要件はできる限り集約！／チェック方式中心の様式を作成しておく／記録はデジタル保管（共有）

- ①経営理念・行動指針の確認
- ②老人福祉法第33条「基本方針」の確認
- ③ユニットリーダー会議・経営会議における決定事項の伝達
- ④介護サービスの改善提案・意見
- ⑤ユニット運営計画の進捗状況
- ⑥ユニットケアチェックリストの進捗状況
- ⑦身体拘束適正化のための対策を検討する委員会
- ⑧ヒヤリハット・介護事故に関する事故の発生防止・再発防止のための委員会
- ⑨感染症の発生及びまん延等に関する委員会
- ⑩BCP委員会
- ⑪カスタマーハラスメント事例の有無
- ⑫利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策に係る検討委員会
- ⑬労働災害にかかる「ヒヤリハット事例」報告
- ⑭外国人介護人材にかかる適切な指導及び支援報告（就労開始から6月未満の技能実習生）
- ⑮個別事例検討(ケアカンファレンス・モニタリング等)
- ⑯系の事業計画進捗状況・研修フィードバック・連絡事項・その他必要な事項 など



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

自法人における全体の進め方の整理（2019.1作成）

第4階層

【マイルストーン】
機器の自動連携(IoT化)

“超高齢化”・“生産年齢人口急減”にも耐えられる施設・事業所運営

介護スタッフがすべきこと
(専門性の高いケア)

パレシオン・
マネジメント

人材定着
人材育成

第3階層

・高年齢の方
・主婦の方
・障がいのある方
・短時間であれば
勤務可能な方
・ボランティア など

人材
活用

“業務の分担(細分化)”

介護の
周辺業務

介護スタッフがすべきこと
(グローバル介護人材を含む)

キャリアパスに見合った処遇

人づくり

研修受講

労務管理
働き方改革

人材確保

第2階層

“明確に”区分

テクノロジーの活用
(ICT・介護ロボット・機器・自動化・
AI・最適化など)ができること

人がすべきこと

資格取得

WLB

第1階層

働きやすい職場づくり

特色・魅力づくり

積極的な情報発信

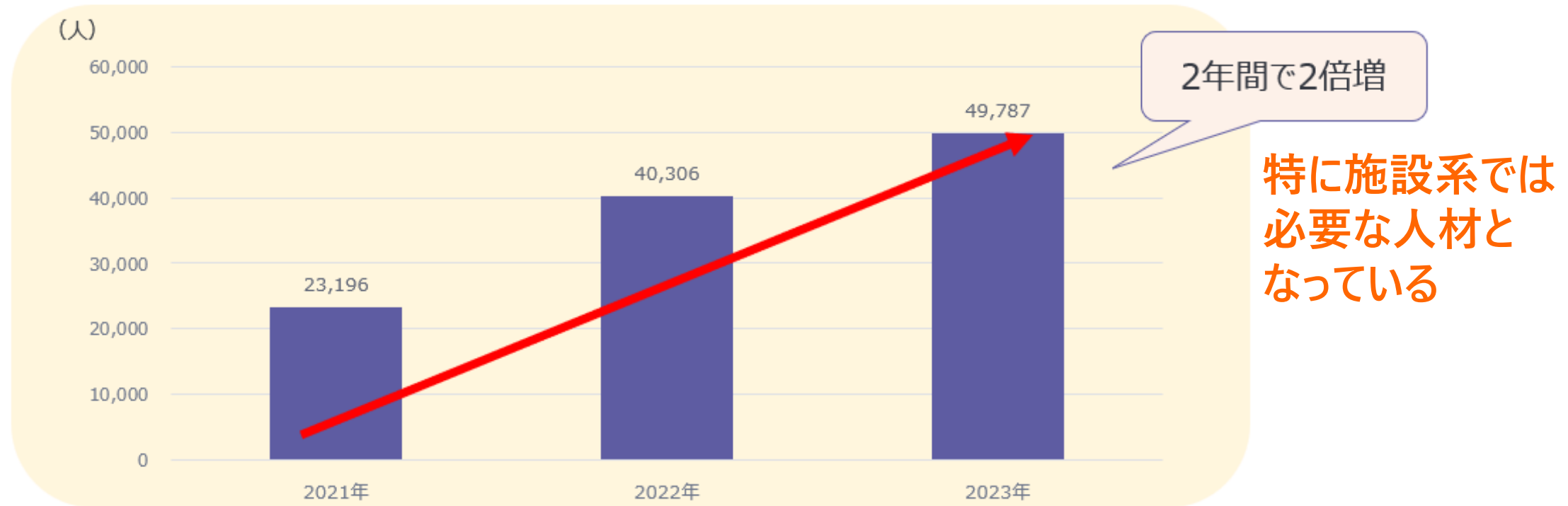


社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

グローバル（外国人）介護人材について

＜外国人介護人材の在留者数＞



出典：在留者数はEPA、在留資格「介護」、技能実習、特定技能の合計値を算出

EPA、在留資格「介護」は「在留外国人統計」（出入国在留管理庁）、技能実習は「職種・作業別 在留資格「技能実習」に係る在留者数」（法務省）、特定技能は「特定技能在留外国人数」（出入国在留管理庁）のデータより作成

＜注＞

- ・ 「在留外国人統計」は12月末時点の数値である。
- ・ 「技能実習」の「職種・作業別 在留資格「技能実習」に係る在留者数」は、12月末時点の数値である。
- ・ 「特定技能」は12月末時点の数値である（出入国在留管理庁が「特定技能在留外国人数 第4表」として公表。
- ・ 「EPA」は、EPA介護福祉士候補者とEPA介護福祉士、EPA看護師候補者とEPA看護師の総数である。なお、EPAの家族帯同者は393名（令和5（2023）年12月）である。

グローバル介護人材雇用の経過（入居・滞在型サービス）

所属法人 介護老人福祉施設・短期入所の事例

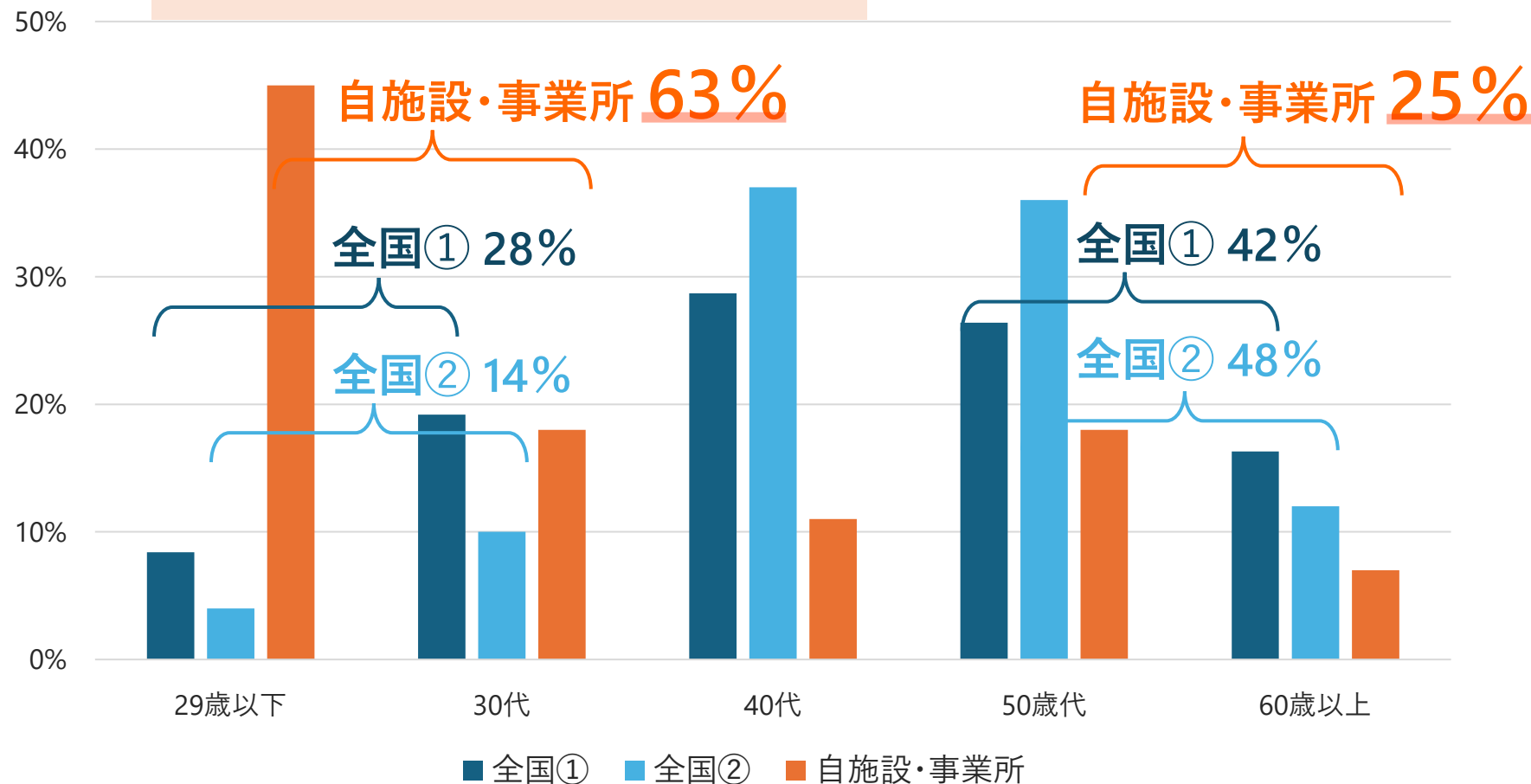
	2021.10	2023.4	2024.4	2025.4	2025.12	2026.8(予定)	備考
在留資格介護			1 (8%)	4 (29%)	4 (35%)	6 (26%)	※介護福祉士有資格者 ※定住・家族帯同可
特定技能1号	1 (100%)	4 (57%)	4 (33%)	3 (21%)	4 (25%)	10 (43%)	※最長5年（介護福祉士 取得により在留資格介護 へ移行可能）
技能実習		1 (14%)	3 (25%)	3 (21%)	4 (25%)	3 (13%)	※2027.4～育成就労制度へ 移行 ※最長3年（特定技能1号へ 移行可能）
介護福祉士養成校 の留学生アルバイト		2 (29%)	4 (33%)	4 (29%)	4 (25%)	4 (17%)	※卒業後、介護福祉士取得 （在留資格介護へ移行） 今後、国家試験受験が必須と なる予定
計	1	7	12	14	16	23	※介護リーダー職：3名 （ベトナム1名、ネパール2名）
平均年齢 （在留資格介護）	22.0歳 （—）	24.4歳 （—）	24.4歳 （37.0歳）	25.9歳 （27.3歳）	25.9歳 （28.0歳）	23.3歳 (26.0歳)	若い世代の介護職員が大活躍！
介護職員 平均年齢	39.9歳	40.9歳	40.8歳	39.0歳	38.6歳	35.5歳	
ベトナム	1 (100%)	5 (71%)	5 (42%)	4 (29%)	5 (31%)	7 (30%)	 社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム
インドネシア	—	—	3 (25%)	3 (21%)	4 (25%)	7 (30%)	
ネパール	—	2 (29%)	4 (33%)	7 (50%)	7 (44%)	9 (40%)	

介護職員の年齢構成（入居・滞在型サービス）

所属法人 介護老人福祉施設・短期入所の事例

新しいことにチャレンジ・取り組む組織風土が、
若い世代（グローバル人材）を引き寄せる！

平均年齢
自施設 35.5歳
全国 47.0歳



全国①：公益財団法人介護労働安定センター「令和6年度介護労働実態調査結果」を参考とした

全国②：公益社団法人全国老人福祉施設協議会 介護人材対策委員会「令和7年度介護人材確保に向けた働き方・福利厚生に関する調査報告」から集計（令和8年3月）



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

人材確保≡グローバル介護人材 → ICT活用による能力開発

所属法人 介護老人福祉施設・短期入所の事例



グローバル介護人材は、ICTとの親和性が高い



介護ソフト

排泄			
排泄方法	トイレ	Pトイレ	パット・オムツ
排泄介助	一部介助	見守り	全介助 自立
排泄	尿	便	
パット/オムツ	普 少 多	普 少 多	
トイレ/Pトイレ	普 少 多	普 少 多	
性状	☐ 反応便		
尿測	g ml		
コール	☐ 有		
状況対応			

ツール 転記 実行 マーカー選択

翻訳 日本語(Japanese)

- ① 翻訳したい言語を選択
- ② 「翻訳」ボタンを押す

〈インドネシア語〉

ekskresi				
Metode ekskresi:	kamar kecil	P Toilet	Putt	Popok
Bantuan ekskresi:	bantuan narsial	rematik auan	Bantua dekaa	
ekskresi	air kencing		Kenyamanan	
Pad/Popok	Pu air sepu ibit	nya	Pu sepu ibit	nya
Toilet / P Toilet	Pu air ibit	nya	Pu sepu ibit	nya
	apa-		apa	nya nan il
Properti			☐	Tinja reaktif

〈ベトナム語〉

bài tiết				
Phương pháp bài tiết	nhà vệ sinh	Nhà vệ sinh P	Putt	Tà
Hỗ trợ bài tiết	một nhân	sát	hỗ trợ	lần
bài tiết	nước đại		Thuận tiện	
Pad/Tã	Pu	it	Putt	Putt
Nhà vệ sinh / Nhà vệ sinh P	Pu	it	Putt	Putt
	không		với	
Thuộc tính			phản	



・日本人と同じ記録業務が可能
・ヒヤリハット報告書等、複雑な書類も作成

インカム・スマートフォン



〈インカム〉



リアルタイム・同時・一斉の情報共有



〈スマートフォン〉



見守りロボットからの通知や画像を手元で確認

見守りロボット

(カメラ系体動・離床センサー)



ベッドの位置に合わせて、機器の角度を調整

所属法人の特養ホーム・ショートステイでは、介護職員の約4割がグローバル介護人材
(目標50%以上・・・上方修正を検討中)



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

介護職員の必需品

所属法人 介護老人福祉施設・短期入所の事例

過 去

- ① PHS(内線電話用子機)
- ② メモ帳・筆記具
- ③ 各種様式・記録ファイル
(紙媒体)



現 在

- ① インカム
- ② 見守り支援ロボット
スマートフォン
- ③ 介護ソフト・各種アプリ
(デバイスはラップトップPC
＝LIFEデータ入力・
オンライン会議等のため)
※①を装着 (全介護・看護職員)
スマホを携帯、アプリをPC・スマホ
にインストール



N2取得！
介護福祉士合格！



育児休業から
復帰！

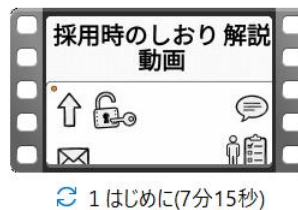


社会福祉法人 鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム

AIの活用

- 科学的介護推進体制加算データ（＋興味・関心チェックシート）・・・ケアプラン原案作成のためのアイデア出し（原案作成時間：1件約40分⇒約10分へ）
- アセスメントデータ

- 採用時説明資料



- ・・・説明動画の作成（担当2名で説明4時間⇒1名で30分へ）

- 各種評価



- ・・・LIFEフィードバック、決算データ、経営データなど

- 各種書類

Google Gemini 案を修正

令和7年度・決算分析報告（社会福祉法人・鈴鹿福祉会）

1 □財務全般および業績の総括

当年度は、法人全体で経常増減差額が 33,664,887 円の黒字（前年度は 23,164,483 円の赤字）となり、大幅な業績回復を達成しました。当期活動増減差額も同額の 33,664,887 円の黒字となり、次期繰越活動増減差額は 388,720,984 円まで拡大しています。

- AIカメラシステム

- ・・・原稿作成、文書の校正、挨拶文作成、会議録作成・要約、説明資料、ppt資料 など

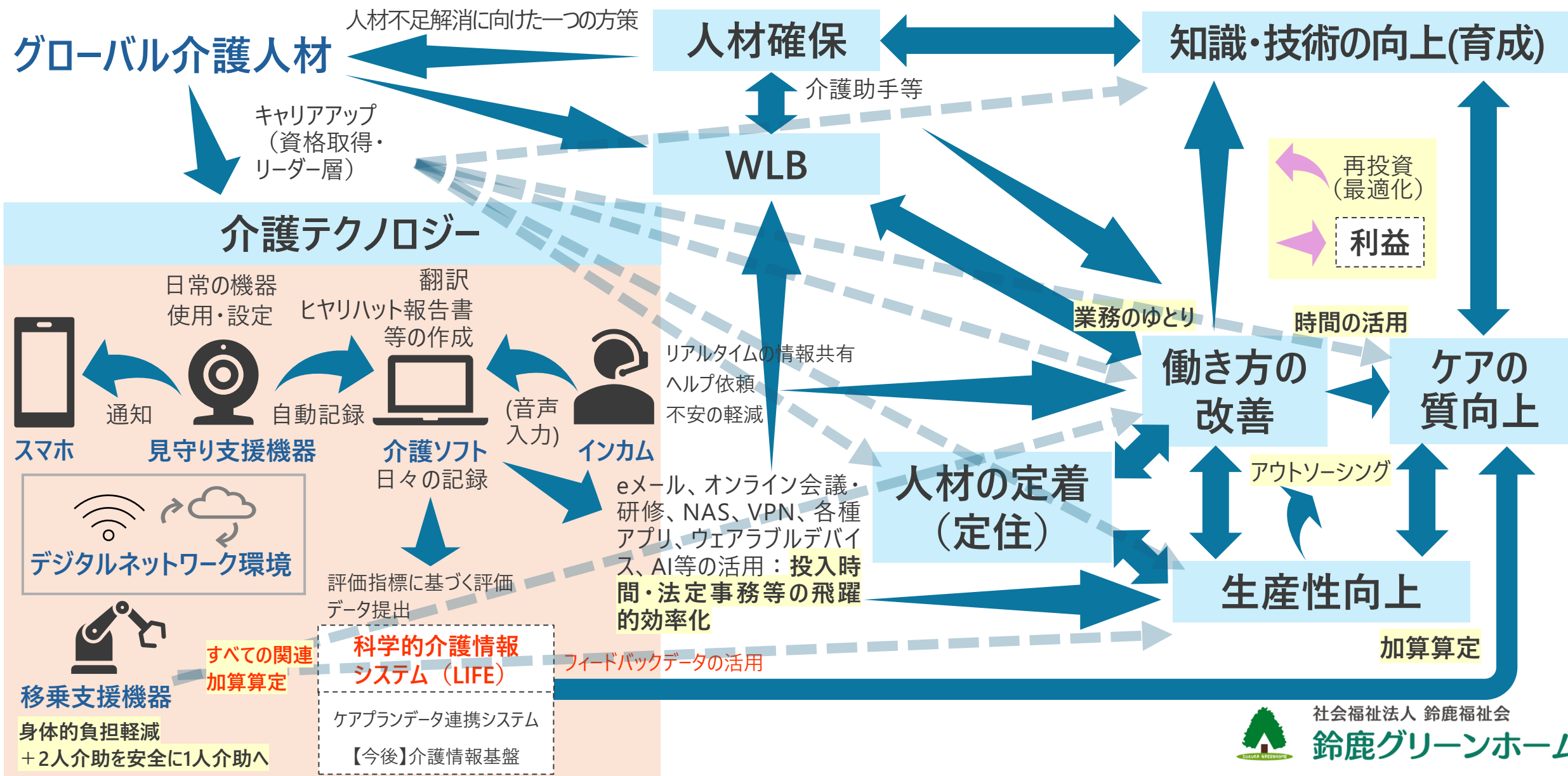
- ・・・居室以外の共用部の見守り、ベッドの位置を自動認識、職員と高齢者を自動で見分ける

- アイデアの相談相手

- ・・・質問、壁打ち



自施設が目指している「課題」→「働きやすい職場環境づくり」の好循環（経営全体として）



自法人の取り組みのベースとなっている考え方 まとめ

組織風土について

- ・国の方針、制度の見直し、時代の進展、テクノロジーの進歩やデータの分析結果などにより、私たちの仕事（業務）は日々大きく変化することがあると、当然のこととして受け入れておく必要がある。
- ・レスポンスよく変化に対応すること、場合によっては突然変異（従来の方法をガラッと変える）ことも必要。その場合、やらずの否定（文句）はよくない。とりあえずやって（チャレンジして）みて、うまく行く方法を見つけ出していくことがよい。
- ・また、私たちは、一気にまくれるような超高機能エンジンは積んでいない。したがって、常に先団に近い位置にいる必要がある。満点を求めるのではなく、弱い項目から始め、すべての項目を漏れなく、75点になるようにもっていく。



自法人の取り組みのベースとなっている考え方 まとめ

介護人材について

- ・介護職員について、2040年にはあと57万人必要で、三重県においては5700人必要との推計が発表されている。
 - ・現介護現場の人材不足層は、30代以下の高度介護福祉専門人材（介護福祉士）で、この層が圧倒的に不足している。今後15年の人口推計をみると、日本人だけではこれに対応することは不可能と思われる。そこでグローバル介護人材の一択と考える。
 - ・グローバル介護人材の受け入れには、まず環境整備が必要である。（特定技能の受け入れ停止に注意が必要）受け入れの順番（制度・国等）がポイントになるが、本人が借金を背負わずに入国できるようにする。仕事面においては、デジタルネットワーク環境の整備、生活面においては、住居の確保、生活必要品の貸与、諸手続や買い物などが必要で、職員が分担してしっかりサポートを行う。
- また、グローバル介護人材は人手不足の穴埋めとは考えない。介護福祉士、リーダー職まで育成することを目標に仕事を教えていくとよい。介護職員のうち50%以上を占めることができれば、人材の苦労は圧倒的に軽減する。また、彼等には将来のビジョンを持っている者も多い。三重県で暮らし続けたい者、介護需要に合わせて移動を考える者、母国へ帰り介護施設等を運営したい者等があり、ピークアウト後の供給調整機能も果たしてくれるのではないかと考える。また、帰国し介護施設を運営したいと考える者については組織としてのサポートも想定される。日本での介護業務の従事経験は大きなキャリアである。



自法人の取り組みのベースとなっている考え方 まとめ

テクノロジーについて

- ・介護ソフト（持ち運びができるデバイス）、インカム、見守り支援機器（デバイスはスマホ）は現代の介護職員の必須アイテム。
- ・構築されたネットワーク環境とデバイスによって、多様なアプリの活用が可能となる。テクノロジーを活用することで、グローバル介護人材も日本人職員と同様の業務パフォーマンスを発揮することができる。テクノロジーは彼等のポテンシャルを最大限に引き出すツール。
- ・施設系サービスにおいては生産性向上推進体制加算の算定は必須である。介護テクノロジーと各種アプリをフル活用しなければ生産性向上は達せられない。また、LIFE関連加算の取得も必須である。LIFE関連加算の取得については、専門職の確保に加え、テクノロジーをフル活用しなければ可能にはならない。LIFEのFB活用は国の分析に先んじて、現場のケアのよさを社会に訴えるものとしてとらえる。国からのエビデンスを後追いするようでは現場のモチベーションが低下し、疲弊感をもたらす。また、2028年に本格導入が予定されている介護情報基盤への接続を意識しておく。また、新しいデバイスやアプリが実装可能と考えれば積極的に試すべきである。



自法人の取り組みのベースとなっている考え方 まとめ

若い世代について

- ・グローバル介護人材の雇用により、閉鎖的との声も聞かれていた介護現場が一気にグローバルな環境となる。日本人の若い世代が日本の文化やよさをグローバル介護人材に伝える。グローバル介護人材から日本人の若い世代が世界について学ぶことで、グローバルな視野が身に着く。休暇に共に海外旅行に出かける未来を期待する。また、若い世代が新しい介護現場やそのイメージを積極的な発信に寄与することにも期待する。



ご清聴ありがとうございました

